PRIMERGY

取扱説明書

KVMスイッチ(4ポート)[PG-SB203]
KVMスイッチ(8ポート)[PG-SB204]

FUJITSU

この装置は、クラスＡ情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計･製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御などの、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命･身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下｢ハイセイフティ用途｣という)に使用されるよう設計･製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

目　　　次

ハイセイフティ用途での使用について

はじめに

このたびは、PRIMERGY（プライマジー）用KVMスイッチ（4ポート）またはKVMスイッチ（8ポート）[以降、KVMスイッチまたは本装置と呼びます]をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本装置をお使いになると、1組のモニタ、キーボード、マウスで複数台のサーバを操作できるため、大幅な省スペース化が実現できます。また、本装置をカスケード接続することにより、KVMスイッチ（8ポート）9台で最大64台のサーバを操作できます。
本書は、本装置の基本的なことがらについて説明しています。ご使用になる前に、本書をよくお読みになり、正しい取り扱いをされますようお願いいたします。
また、本書は本装置の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

表記規則

この説明書で使用している記号と文字の意味は次のとおりです。

⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性があること、および物的損害（本装置またはサーバの損害など）が発生する可能性があることを示しています。

Point　この記号のあとの文書は補足説明、注釈、ヒントです。

- 参照する章のタイトルと用語を強調する場合は、カギ括弧（「」）で囲んでいます。
- 以降KVMスイッチまたは本装置と記載された部分は4ポート/8ポート共通の記述を表します。
- ＜＞で囲まれた文字はキーボード上のキーを示します。
  例：＜ESC＞はESCキーを＜ENTER＞はENTERキーを示します。
- ()で囲まれた数字は、順序にしたがっておこなう必要がある操作を示しています。

梱包品の確認

次のものが、梱包されていることをお確かめください。

- KVM スイッチ 4 ポートまたは 8 ポート　×1
- 取扱説明書（本書）　×1
- 保証書　×1
  （保証書に必要な詳細がすべて記入されていることをお確かめください。）
- ゴム足　×4
- AC コード（リリースタイ付）[2m]（8 ポートのみ）　×1
- ラック取り付け用ネジ（8 ポートのみ）　×4

*注.4 ポート KVM スイッチを使用する際には、別途 AC アダプタ[PG-SBPU2]の手配が必要です。
（但し、17 インチフラットディスプレイに搭載する場合は不要です。
15 インチフラットディスプレイに搭載する場合は必要ですのでご注意下さい。）
万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、担当営業員までお申し付けください。

重要なお知らせ

この章には、KVM スイッチで作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

安全性

⚠ 注意

安全上の注意

本装置は、事務オフィス環境で使用する電子事務用機器などの情報処理装置に関する安全規格に準拠しています。ご不明な点があれば、担当営業員に連絡してください。

- 本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。
- 本装置の取り付け中と使用前に、「仕様」の環境条件についての記事と「設置」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 電源はスイッチ等で切断しない常時通電している電源コンセントから取ってください。
- 本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあります。
  装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ温度になってから使用してください。
- 損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続または取り外すときは、「ケーブルの接続と取り外し」の該当部分を参照してください。
- 雷雨のときは、ケーブルを接続したり取り外したりしないでください。
- 本装置の内部に異物（ネックレスやクリップなど）や液体が入らないようにしてください。

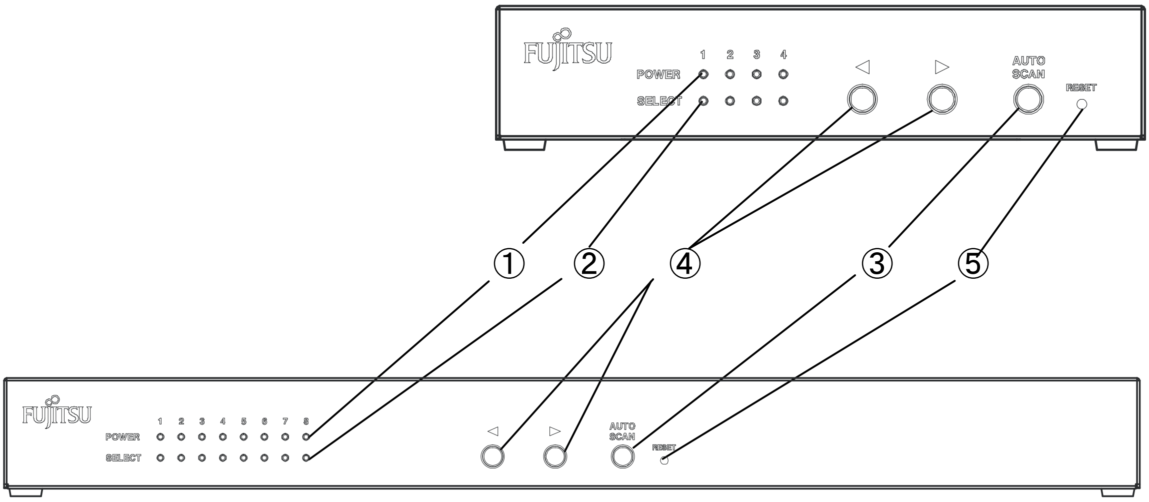
- 緊急の場合（筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など）は、ただちに装置からすべてのケーブルを外して、担当営業員に連絡してください。
- 本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザが本装置を開き、誤った修理や改造をおこなうと、感電や火災の原因になることがあります。
- ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。
- 濡れた手での使用またはコネクタの抜き差しはしないでください。
- 本装置の上には、コップなど不要な物をおかないでください。
- 警告マーク（稲妻マークなど）が付いている部品（電源装置など）の分解、取り外し、交換は、資格のある人以外はできません。
- 周辺機器用のケーブルは、干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となりますので、専用のケーブルをご使用ください。
- 本書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は、本書も譲渡してください。
- 本装置同士（4 ポートと 8 ポートの混在可能）および従来機種（CRT/KB 切替器：PG-SB201/SB202）のカスケード接続は可能ですが、従来機種のうち CRT/KB 切替器：PG-SB104/SB105 は仕様が異なるため、カスケード接続できません。
  従来機種（CRT/KB 切替器：PG-SB201/SB202）とカスケード接続する際は、本装置をマスター側、従来機種をスレーブ側としてください。
- 本装置からサーバまでの専用ケーブルのケーブル長は、合計 7m 以下にする必要があります。
  カスケード接続時には本装置間を PS/2:1.8m の専用ケーブル(PG-CBLDP12)にて接続してください。

特　長

- 複数台のPCサーバを接続することで、今まで各サーバに接続していた複数台のコンソール（モニタ、キーボード、マウス）を1組のコンソールで共有することができ、大幅な省スペースが実現できます。
- KVMスイッチ（4ポート）1台で最大4台、KVMスイッチ（8ポート）1台で最大8台のサーバが選択できます。
- 本装置をカスケード接続する事で、接続できるサーバ数を拡張できます。
  例：KVMスイッチ（8ポート）9台で、64台のサーバが接続可能です。
- モニタの解像度はUXGA（1600×1200）、リフレッシュレート75Hzまでサポートします。
- サーバの選択はセレクトスイッチまたは、キーボード/マウス（ホットキーモード）で 簡単にできます。
- ホットキーモードではOn Screen Display(以下OSD)表示により、画面を見ながら切り替えができます。
- OSD表示はキーボード/マウスによるホットキー入力で行えます。ホットキーは3種類のキー入力 （＜Ctrl＞+＜Alt＞+＜Shift＞、＜Ctrl＞ x2、＜Scroll Lock＞ x2)もしくはホイールボタン付きマウスのセンターボタンクリックから選択して設定できます。
- オートスキャンはスイッチまたは、キーボードで行えます。
- オートスキャンでは起動しているサーバを自動的に切り替えますので、各サーバの状態が一定周期で監視できます。また切り替え周期は6段階に設定できます。
- 専用ケーブル(24ページ仕様のオプション品を参照)により、キーボード、マウスがPS/2またはUSBで接続できます。

各部の名称と働き

1. 操作パネル面



本装置前面図

① [POWER] LED（緑色）
　サーバの電源が ON の時に点灯します。

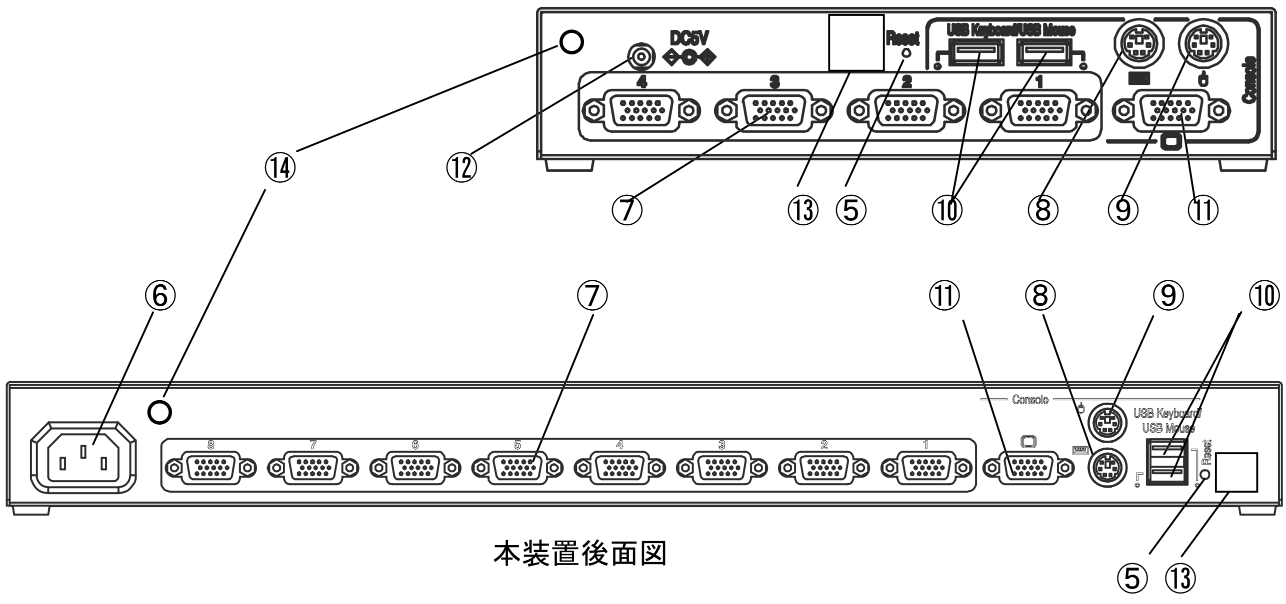
② [SELECT] LED（緑色）
　選択されたポートが点灯します。ホットキーモードでは早い点滅（1 秒間に約 10 回）となります。

③ [AUTO SCAN] スイッチ
　押下するとサーバの電源が ON になっているポートの画面を順次自動的に切り替えることができます。オートスキャン中は、［SELECT］LED が遅い点滅（1 秒間に約 2 回）となり、サーバのキー入力、マウス操作はできません。再度押しますと表示している画面のポートを選択し、オートスキャンが終了します。

④ [SELECT] スイッチ
　サーバを選択する時に押します。サーバの電源が OFF の状態のポートも選択できます。

⑤ [RESET] スイッチ
　通常は使用しません。万が一、サーバの選択ができない場合やキーボード、マウスの入力異常が発生した場合にボールペンの先などで軽く押してください。
　[RESET] スイッチを押下すると本装置は初期状態に戻りますので、サーバを再起動する必要はありません。
　([RESET]スイッチは前面及び後面にあります。どちらも機能は同じです)

2. コネクタ面



本装置後面図

⑥ インレット [8 ポートのみ]
　電源ケーブル（AC100V）を接続します。
　専用の電源ケーブル以外はご使用にならないで下さい。

⑦ サーバ接続用ポート
　本装置の各ポートとサーバのキーボード/マウス/ディスプレイコネクタを専用ケーブルで接続します。

⑧ キーボードコネクタ
　PS/2 のキーボードを接続します。

⑨ マウスコネクタ
　PS/2 のマウスを接続します。

⑩ USB キーボード・マウスコネクタ
　USB のキーボード、マウスを接続します。
　キーボード、マウスはどちらに接続しても動作します。
　(キーボード、マウス以外接続できません)

⑪ ディスプレイコネクタ
　ディスプレイを接続します。

⑫ AC アダプタ用コネクタ　[4 ポートのみ]
　専用の AC アダプタ又は専用の DC ケーブル (17 インチフラットディスプレイ装置より供給) 以外はご使用にならないでください

⑬ ミニ USB コネクタ
　このコネクタは使用しません。シールは剥がさないで下さい。

⑭ リリースタイ取り付け穴
　電源ケーブル(8 ポート)もしくは、AC アダプタ(4 ポート)の抜け防止用の専用リリースタイを挿入します。(リリースタイは電源ケーブル、AC アダプタに取り付けてあります)

Point　PS/2 コンソールと USB コンソールの両方にキーボード、マウスを接続すると、USB 側が優先され、PS/2 側は動作しません。

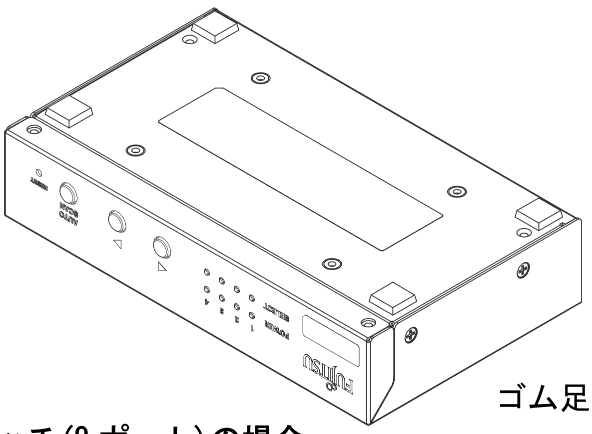
設置

KVM スイッチ(4 ポート)は外付装置として設置できるだけでなく、PRIMERGY ラック搭載用フラットディスプレイへ搭載することができます。また、ラックマウント変換機構を別手配することにより、PRIMERGY 用ラックの CRT/KB 格納テーブルの横にある空きスペースに搭載することができます。
KVM スイッチ(8 ポート)は外付装置として設置できるだけでなく、PRIMERGY ラックに搭載することができます。方法は通常設置領域（水平方向:背面設置）への搭載に加え、スタンダードラックの場合は縦置設置領域（垂直方向）にも搭載することができます。

1.外付設置

1-1　KVM スイッチ(4 ポート)の場合

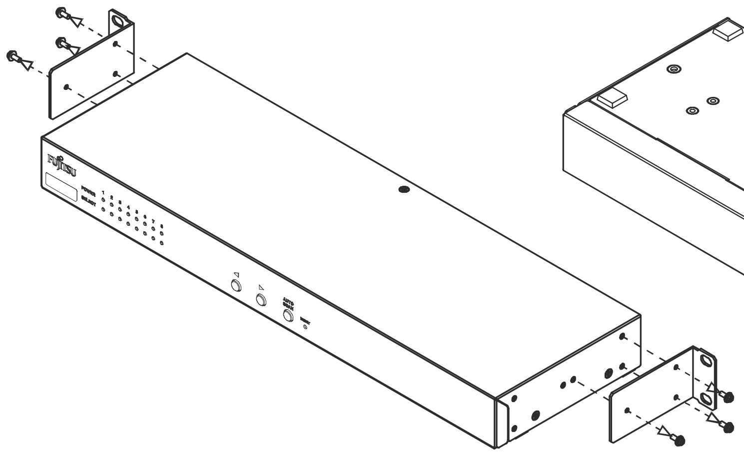
本装置の底面に、同梱されているゴム足(4 個)を四隅(隅から 3mm 程度内側)に貼り付けし、ゴム足を下にして水平な場所に設置します。



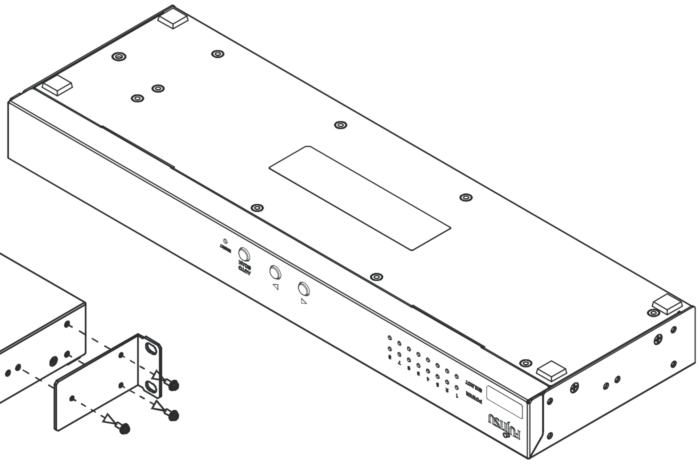
ゴム足貼付位置

1-2　KVM スイッチ(8 ポート)の場合

(1) 本体からラック取り付け金具を取り外します。（ネジは左右各 3 本）
ラック取り付け金具とネジ 6 本は大切に保管してください。
(2) 底面に、同梱されているゴム足(4 個)を四隅(隅から 3mm 程度内側)に貼り付けし、ゴム足を下にして水平な場所に設置します。



ラック取り付け金具取り外し方



ゴム足貼付位置

Point　どのケーブルがどの装置のものかを判別できるように、ケーブルにタグを付けるなどすると、作業がし易くなります。

2.ラック搭載

2-1　KVM スイッチ(4 ポート)のラック搭載方法

・ フラットディスプレイ装置後面に KVM スイッチ（4 ポート）を搭載できます。
設置の詳細については「フラットディスプレイ装置添付の取扱説明書」をご参照ください。

・ CRT/KB格納テーブルの横にある空きスペースへの搭載方法
別手配のラックマウント変換機構（PG-R1CK19）によりCRT/KB格納テーブルの横にある空きスペースにKVMスイッチ（4ポート）を設置できます。
設置の詳細については「ラックマウント変換機構添付の取扱説明書」をご参照ください。

2-2　KVM スイッチ(8 ポート)のラック搭載方法

2-2-1 背面設置領域への搭載

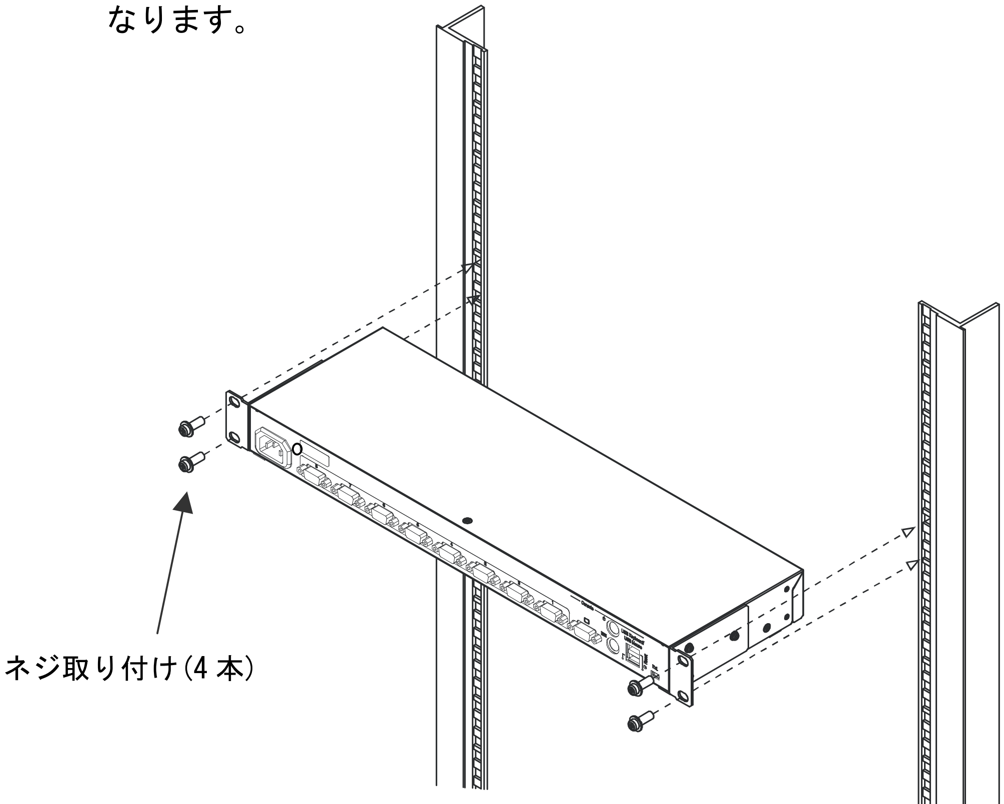
Point　本体（コネクタ側）をラック面にあわせて取り付けます。

---

(1) ラック側の準備
スタンダードラック背面にある左右の取り付け穴にラックナットを取り付けます。1Uの幅で3箇所の穴の内、両端の2箇所にラックナット（左右各2箇所で計4個）を取り付けます。ラックナットは、ラックの添付品をご使用ください。

(2) ラックへの取り付け
ラックの背面にラック取り付け用ネジ（左右各2本）で取り付けます。

*注. ・ ラックと本装置の間に指等はさまないように注意してください。
・ 本装置前面のスイッチでの操作はできなくなりますので、OSD画面での操作となります。



ラック背面への搭載図

2-2-2 縦置設置領域への搭載（スタンダードラックのみ）

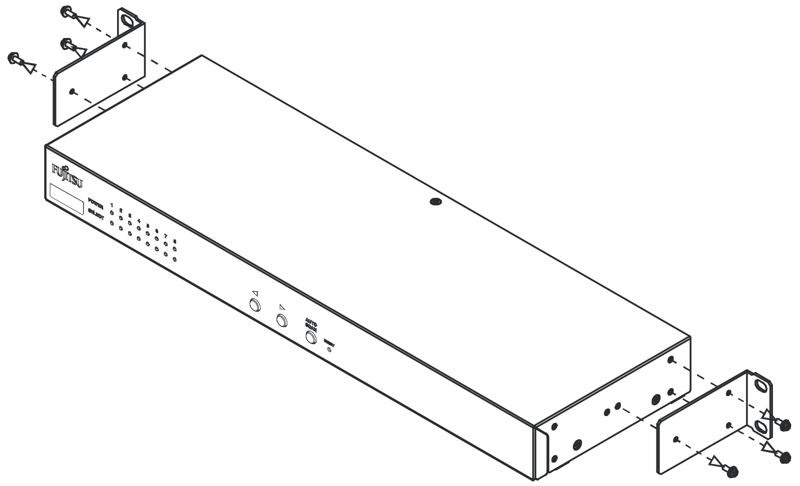
Point 本体前面をラック前面に合わせ縦置設置領域に取り付けます。

（1） ラック側の準備

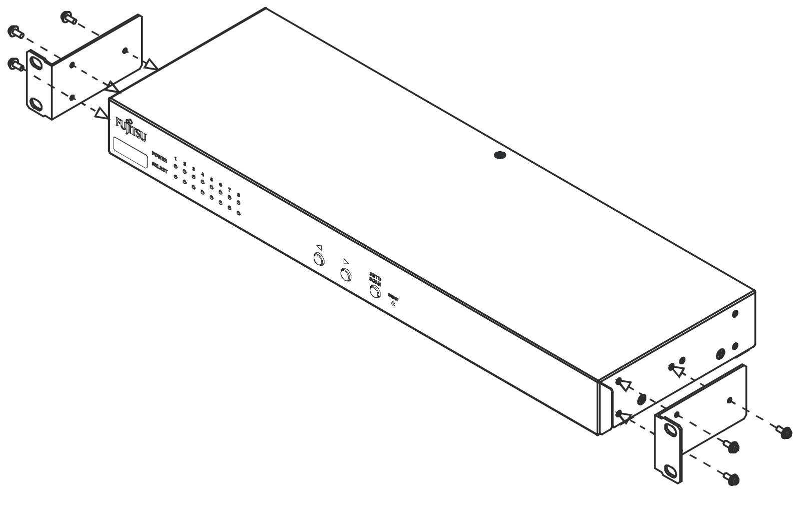
スタンダードラック前面にある縦置設置領域の上下の取り付け穴にラックナットを取り付けます。1Uの幅で3箇所の穴の内、両端の2箇所にラックナット（上下各2箇所で計4個）を取り付けます。ラックナットは、ラックの添付品をご使用ください。

（2） 本装置側の準備

本装置についているラック取り付け金具を止めているネジ(左右各3本)を取り外します。取り外した取り付け金具を前面に取り付けます。



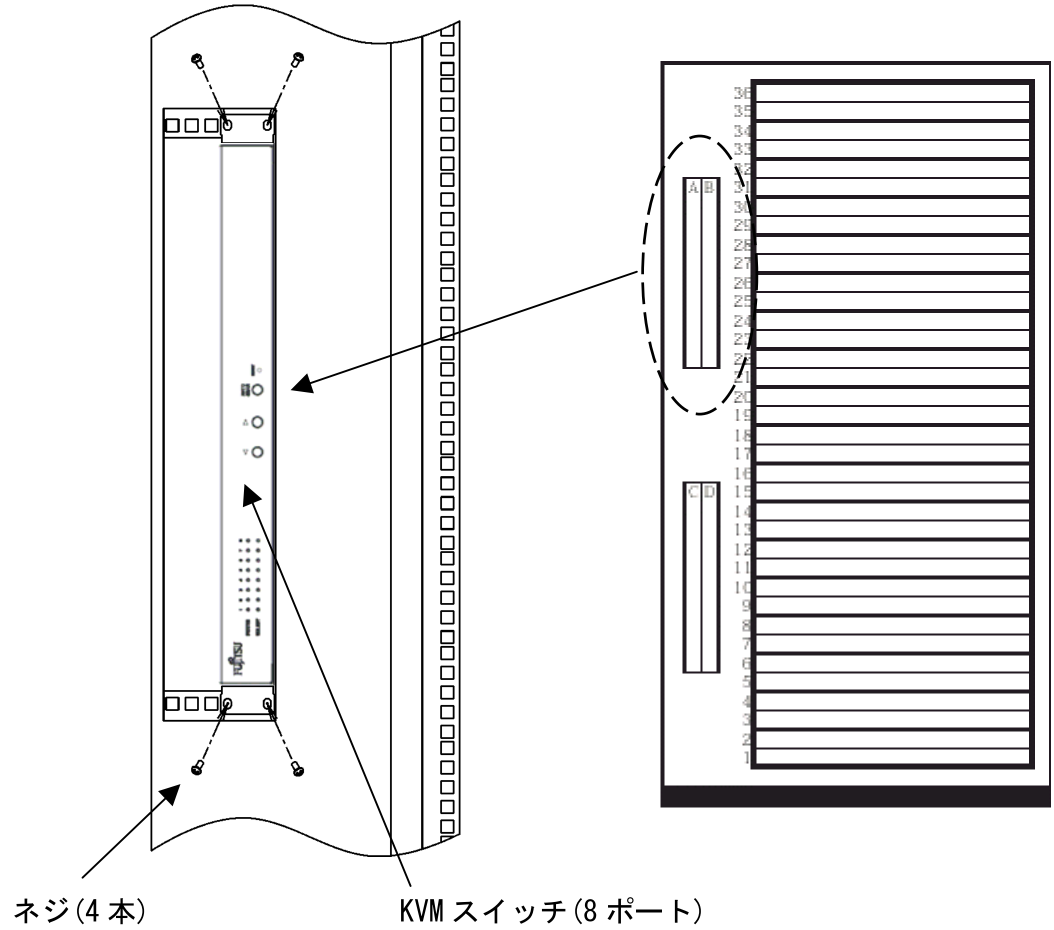
ラック取り付け金具の取り外し方



ラック取り付け金具の取り付け方

(3) ラックへの取り付け

ラックの縦置設置領域に本装置をラック前面から搭載し、ラック取り付け用ネジ（上下各2本）で取り付けます。



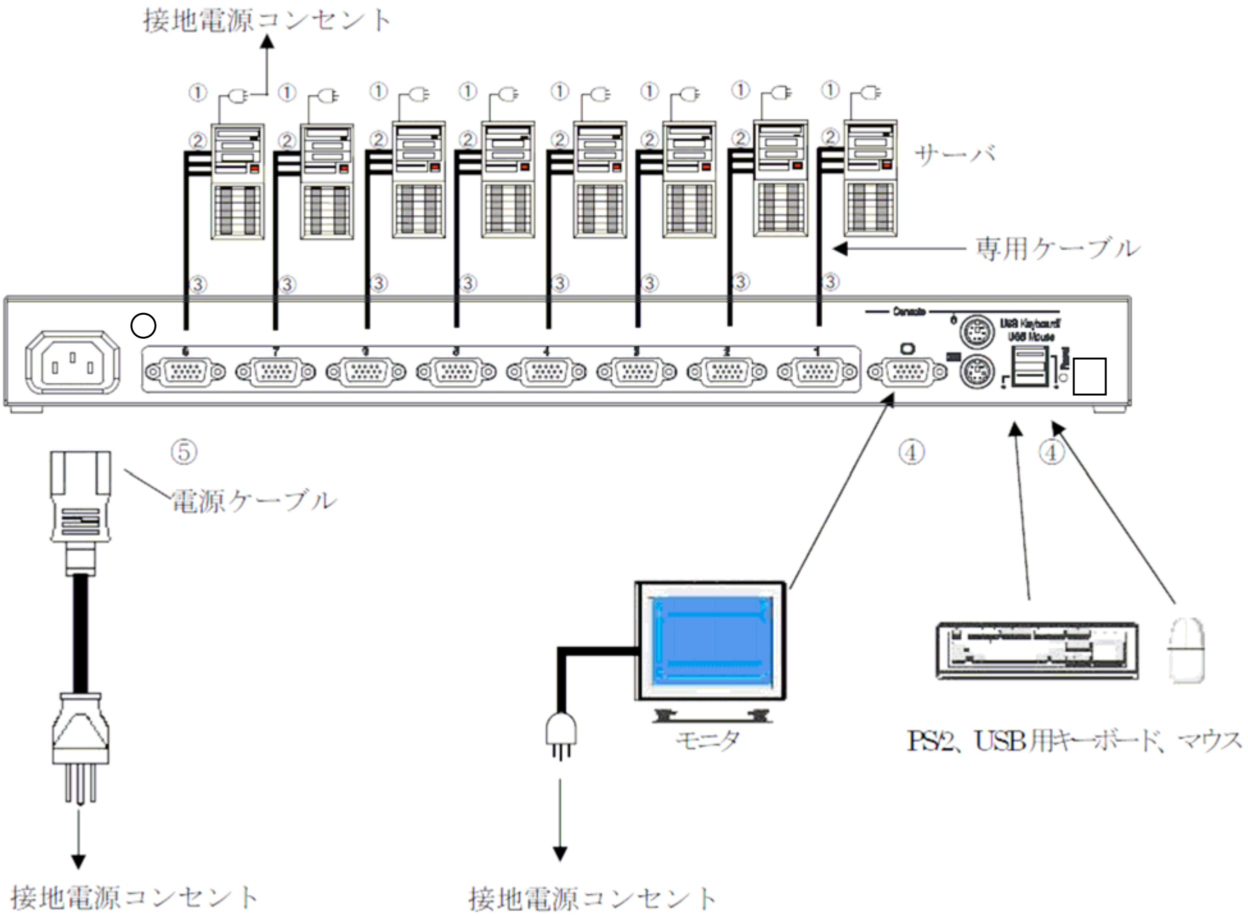
*注.横設置領域のラック前面への取り付けは行わないで下さい。

ケーブルの接続と取り外し

1.ケーブルの接続

KVM スイッチ(8 ポート)の例で説明します。
KVM スイッチ(4 ポート)も同様の手順で接続します。
1-1.カスケード接続しない場合（1 段接続）
サーバが最大 8 台まで接続可能です。

(1) サーバの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。（①を接続）ただし、サーバ電源は OFF のままにしてください。
(2) 1 台目のサーバのキーボードコネクタ、マウスコネクタ及びディスプレイコネクタに別手配の専用ケーブル（PG-CBLDP12/13/14/15/16/17）を接続します。（②を接続）
(3) 専用ケーブルの反対側のコネクタを本装置[1]のサーバ接続用ポートに接続します。（③を接続）
(4) 2～8 台目も同じ手順で接続します。［CONSOLE］ポートにキーボード、マウス、ディスプレイを接続します。（④を接続）
PS/2、USB の両方に接続しても USB 側しか動作しません。
(5) 電源ケーブルとリリースタイを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。（⑤を接続）
*注.4 ポートの場合は、AC アダプタとリリースタイを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。



1-2. カスケード接続する場合（2 段接続）

本装置をカスケード接続（最大構成：マスター1 台、スレーブ 8 台）することにより、最大 64 台のホストが接続できます。

従来機種（CRT/KB 切替器：PG-SB201/SB202）とカスケード接続する際は、本装置をマスター側、従来機種をスレーブ側としてください。

(1)「1-1 カスケード接続しない場合」の(1)～(4)と同様の手順で 2 段目（スレーブ）のサーバ接続用ポートに 1~8 台のサーバを接続します。（①を接続）

(2) 1 段目（マスター）のサーバ接続用ポートと 2 段目（スレーブ）の［CONSOLE］ポートを別手配の専用ケーブル［PG-CBLDP12］で接続します。（②を接続）

*注. マスターとスレーブは、PS/2:1.8m の専用ケーブル［PG-CBLDP12］で接続する必要があります。

(3) さらにスレーブを増設する場合は、(1)、(2)と同様の手順で接続してください。

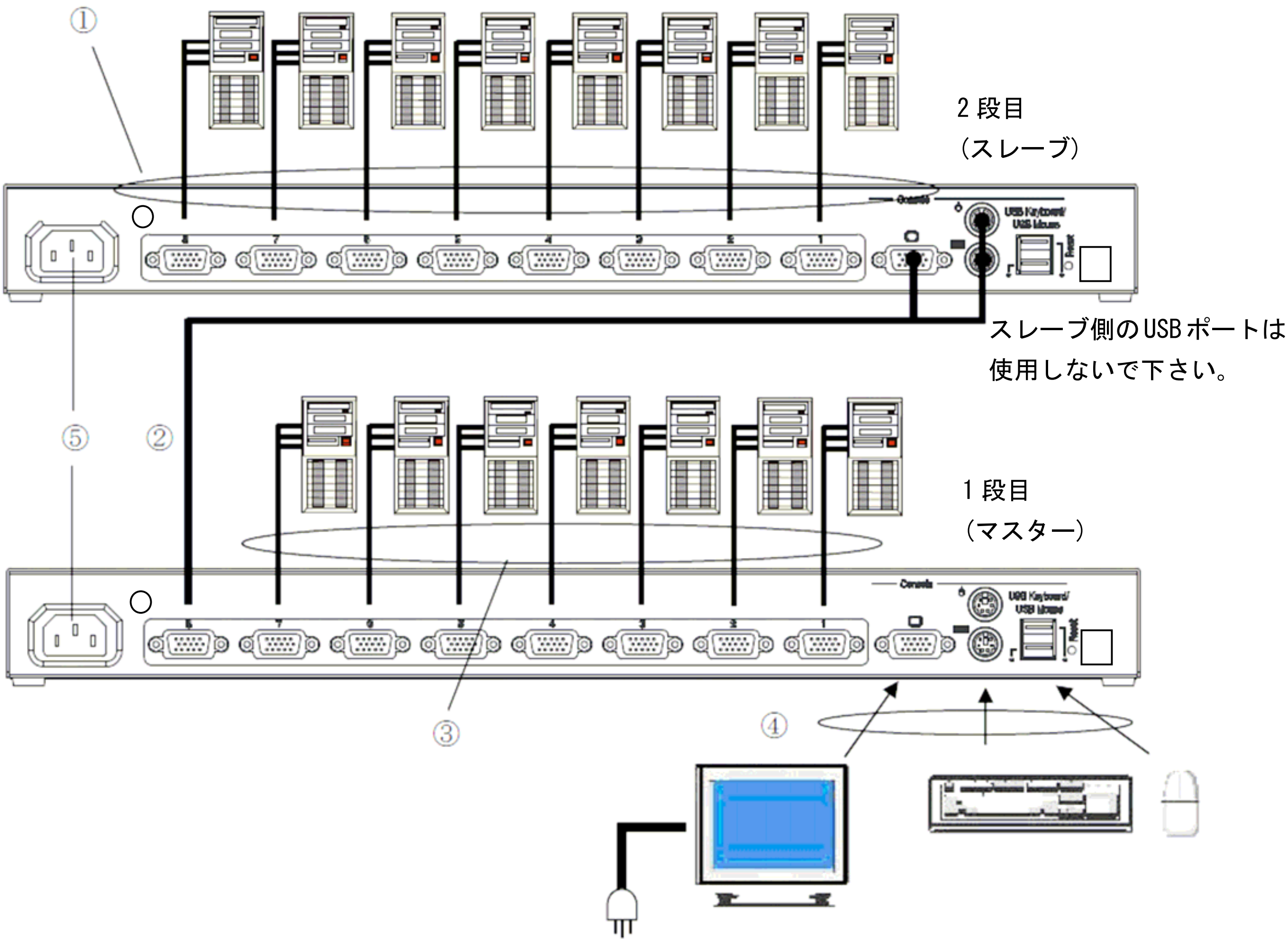
*注. 3 段接続はできません。

(4) 同様の手順で 1 段目（マスター）の残りサーバ接続用ポートにサーバを接続します。（③を接続）

(5) 1 段目（マスター）の［CONSOLE］ポートにキーボード、マウス及びディスプレイを接続します。（④を接続）PS/2、USB の両方に接続しても USB 側しか動作しません。スレーブ側の USB ポートにはキーボード、マウスを接続しないで下さい。

(6) 電源ケーブルとリリースタイを本装置に接続し、電源コンセントに接続します。（⑤を接続）先にマスター側の電源ケーブルを電源コンセントに接続して下さい。

*注. 4 ポートの場合は、AC アダプタとリリースタイを本装置に接続し電源コンセントに接続します。



接地電源コンセント

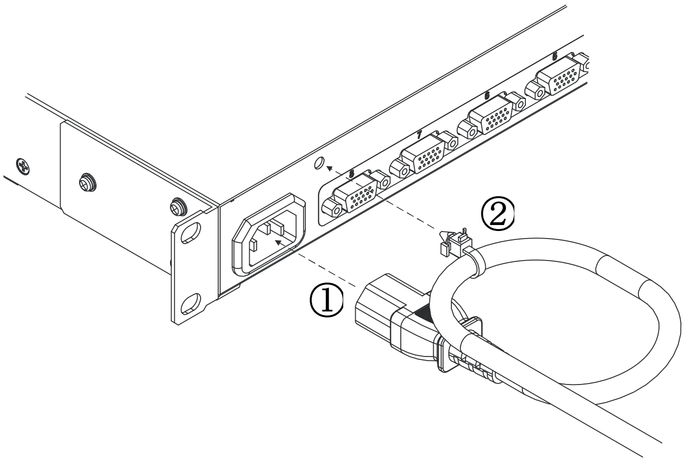
電源ケーブル抜け防止リリースタイ取り付け

(1)電源ケーブルのコネクタを電源ソケットに差し込みます。

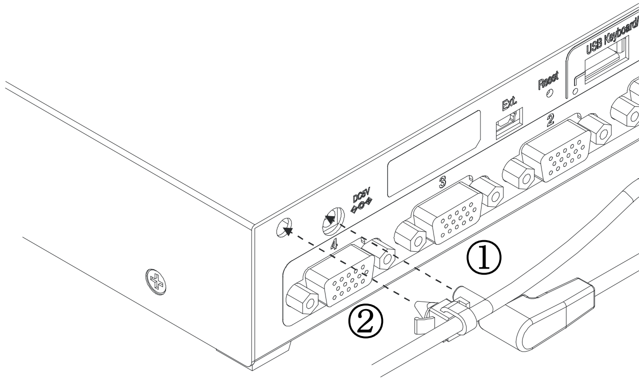
(2)電源ケーブルを図のように引き回し、リリースタイのロックを押しながらリリースタイ取り付け穴（6 ページ　⑭）にリリースタイを通します。

● 電源ケーブルを取り外す際は、リリースタイのロックを押しながらはずしてください。

8 ポート

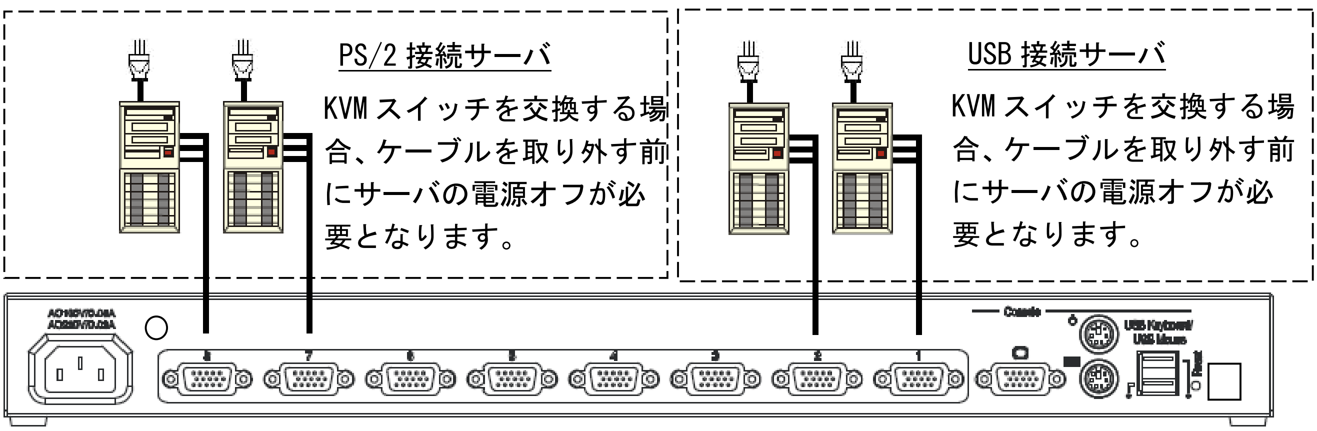


4 ポート



2.ケーブルの取り外し

● 影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いた後で、各ケーブルを取り外してください。



Point 最初に EDID の設定

本装置に初めてディスプレイを接続した時は、プラグアンドプレイデータ(EDID データ)を設定する必要があります。EDID データ設定後、サーバを再起動することで接続されたディスプレイに適した環境で使用することができます。また、設定した EDID データはすべてのポートでエミュレーションされるため、選択していないポートのサーバを起動した場合にも接続されたディスプレイに適した環境で使用できます。
EDID の設定については、「1-3 プラグアンドプレイデータ(EDID データ)の設定」をご参照ください。

1. カスタマーモード設定

1-1 ホットキーモードの設定

ホットキーモードには下記 2 つのモードがあります。OFF にすることもできます。

- ・MODE-1 : Menu 表示
- ・MODE-2 : 選択ポート及びポート名表示

下表の操作にて OSD 画面が表示されホットキーモード(MODE-1、MODE-2)に移行します。

操作	ホットキーモードデフォルト値
①＜Ctrl＞+＜Alt＞+＜Shift＞同時押下	MODE-1
②＜CTRL＞連続 2 回押下	MODE-2
③＜Scroll Lock＞連続 2 回押下	MODE-1
④マウスセンターボタン押下	OFF

ホットキーモード 1 に入った後、＜N＞を押下すること、もしくは右クリックによってカスタマーモードに入ります。変更したいモード(MODE-1、MODE-2、OFF)にカーソルを合わせ＜Enter＞を押下し矢印キー＜↑＞、＜↓＞を使用してモードを選択してください。＜Enter＞を押下することで確定します。

*注. モードは自由に設定することができ、全て”MODE-1”に設定することはできますが、全て”MODE-2”に設定することはできません。又、全て”OFF”に設定することもできません。
*注. OSD 画面を表示させるには接続されているサーバの内、少なくとも 1 台のサーバからのビデオ信号入力が必要です。省電力モードなどの設定によりサーバからのビデオ信号が入力されない場合はホットキーモード 1 に入ることによって省電力モードのサーバを自動復帰します。
*注. センターボタン付きマウス、ホールボタン付きマウスを使用する場合は、センターボタンにホットキーを割り当てることができます。OSD 画面(カスタマーモード)にて”MOUSE CENTER BUTTON”を”MODE-1”もしくは”MODE-2”に設定するとセンターボタンをクリックした際にホットキーモードに移行します。
*注. 上表で＜Ctrl＞+＜Alt＞+＜Shift＞同時押下、マウスセンターボタン押下を OFF とした場合でも、ホットキーモードに入った後では OSD から抜ける操作として使用できます。

Point　ホットキーモードにおけるレジュームの機能

ホットキーモード移行時又は、オートスキャン実行時にマウスの左右移動データを全ポートに送信しサーバをスリープ状態から復帰させせます。本機能によりサーバが通常状態/サスペンド状態に係らず OSD 表示が可能になりポート選択ができます。
又、オートスキャン実行時にもサスペンド状態から復帰させてポート選択を行うことができます。
カスケード接続においても全てのポートにマウスデータを送信します。
但し、従来機種(PG-SB201/PG-SB202)とのカスケード接続においては下記の動作となります。
・本装置の全てのポートと従来機種の選択されているポートにマウスデータを送信します。

ホットキーモードについては、「2-2 キーボード/マウスによる選択(ホットキーモード)」をご参照ください。

1-2 キーボードの言語設定

ホットキーモード 1 に入った後、＜N＞を押下すること、もしくは右クリックによってカスタマーモードに入ります。KEYBOARD TYPE にカーソルを合わせ、＜Enter＞を押下すると KEYBOARD の設定言語を変更することができます。矢印キー＜↑＞、＜↓＞を使用して言語を選択してください。
＜Enter＞を押下することで決定します。

JAPANESE→ENGLISH US→ENGLISH UK→GERMAN→FRENCH→SPANISH→SWEDISH→PORTUGUESE→CHINESE TAIPEI→KOREAN→ITALIAN→UNIX→NORWEGIAN→BELGIAN→DANISH→JAPANESE

1-3 プラグアンドプレイデータ（EDID データ）の設定

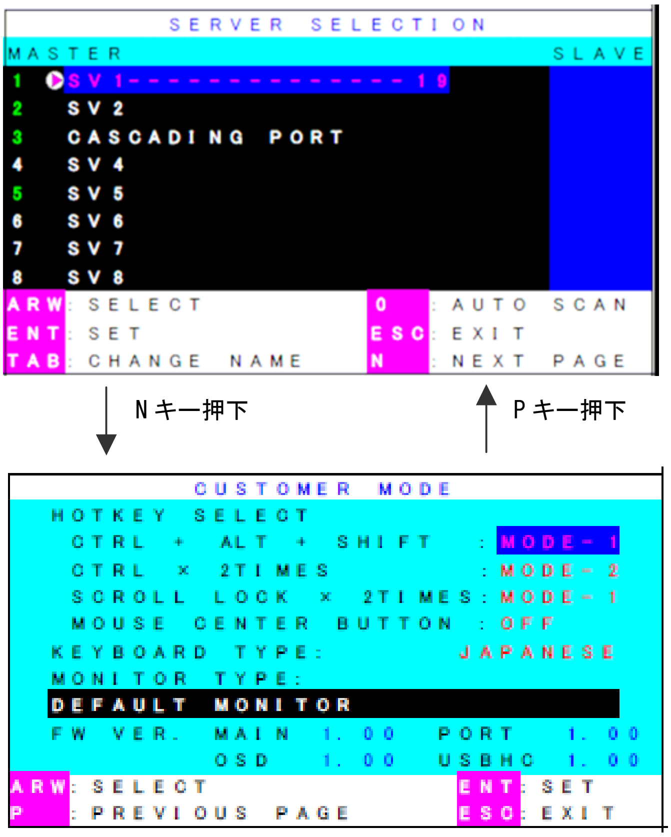
*注. EDID データを設定するためにはディスプレイの電源が ON となっていることが必要です。

(1) ホットキーモード 1 に入ります。
(2) ＜N＞を押下し、もしくは右クリックによってカスタマーモードに入ります。
(3) カーソルを DEFAULT MONITOR(初期状態)に合わせ＜ENTER＞を押下すると SCANNING と表示され、［CONSOLE］ポートに接続されたディスプレイから EDID データを読み取り本装置に設定されます。

*注. EDID データが正しく設定された場合はモニタ名を表示します。ディスプレイがプラグアンドプレイモニタでない場合、ディスプレイの電源が OFF の場合、及びディスプレイが正しく接続されていない場合は、ディスプレイから EDID データを読み取ることができず、DEFAULT MONITOR（15 インチモニタ,解像度:1024x768）として本装置に設定されます。

(4) ＜P＞を押下し、もしくは左クリックによってサーバ選択画面に戻ります。（＜P＞を押下せず、＜ESC＞を押下する、もしくは右クリックによってホットキーモードを終了し、通常画面に戻ることができます。）
(5) ＜ESC＞を押下しホットキーモードを終了し、通常画面に戻ります。

*注. ディスプレイを接続した状態（電源は ON）で、[RESET]スイッチを押すことによっても EDID データを設定することができます。



MONITOR TYPE：EDID 設定モード
F/W VER. ：現在の F/W のバージョン
(F/W：ファームウェア)

2. サーバの選択

各サーバの選択方法は、［SELECT］スイッチによる選択とキーボード、マウスによる選択（ホットキーモード）の3種類あります。
選択中のサーバ電源をOFFした場合はその状態が保持されますが、すべてのサーバ電源をOFFした場合は、最初に電源投入したサーバが選択されます。また、サーバ未接続のポートやサーバ電源OFFのポートも選択可能ですが何も表示されません。

2-1 [SELECT] スイッチによる選択（ノーマルモード）

本装置操作パネルの SELECT スイッチ「 ◀ 」、「 ▶ 」を押下すると、現在選択中のポートから左または右に移動し SELECT した LED が点灯します。電源が投入されていないサーバも選択可能です。

*注. 誤動作の原因となることがありますので［SELECT］スイッチを同時に押下しないでください。

カスケード接続時は、スレーブ側の[SELECT]スイッチの押下で、選択を完了します。
カスケード接続時は、スレーブ側の[Auto Scan]スイッチの押下で、SELECT ポートを選択します。
マスター側の［Auto Scan］スイッチを押下すると［SELECT］LED が点灯から遅い点滅に変わり、サーバ電源が ON になっているポートを一定の周期(初期値は 10 秒)で自動的に切り替えることができます。切り替えの周期は 3/5/10/20/40/60 秒の範囲で選択でき、<↑>押下で速くなり、＜↓＞押下で遅くなります。なお、オートスキャン中はサーバのキー入力、マウス操作をすることができないため、ホットキーモードに移行する場合はオートスキャンを終了してからホットキーモードへ移行するキー入力を行ってください。
オートスキャンは次の方法にて終了します。

・[Auto Scan]スイッチ押下、<Enter>押下、マウス左ボタンクリック、ホイールボタンクリック：現在表示している画面を選択します。
・＜ESC＞押下、マウス右ボタンクリック：オートスキャンを開始した時の画面に戻ります。

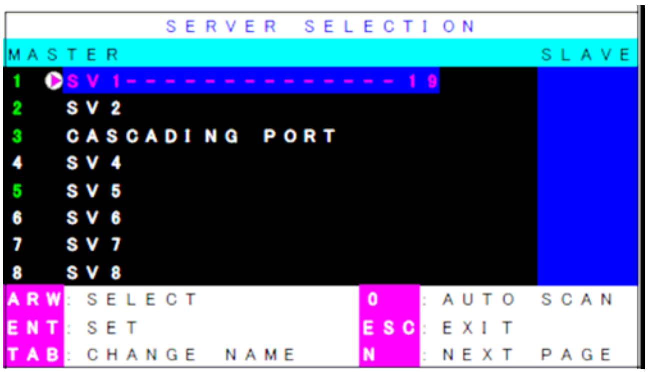
2-2 キーボード/マウスによる選択（ホットキーモード）

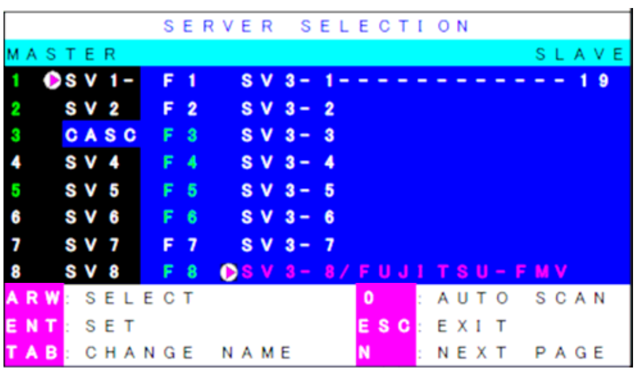
*注. KVM スイッチ(8 ポート)の例で説明しますが KVM スイッチ（4 ポート）も同様な操作でサーバを切り替えることができます。

ホットキーモードに入ると、画面上に OSD の画面が表示され、OSD 表示を見ながら、ポートの選択ができます。
ホットキーモード中はマスター側（1 段目）の［SELECT］LED が点灯から速い点滅に変わりますが、スレーブ側（2 段目）の SELECT LED は点灯のままとなります。
*注：ホットキーモード中は、サーバへのキーボード・マウスの入力はできません。

2-2-1 ホットキーモード 1

ホットキーモードの MODE-1 は次の OSD 画面表示となります。





カスケード接続していないポート選択時　　　カスケード接続しているポート選択時

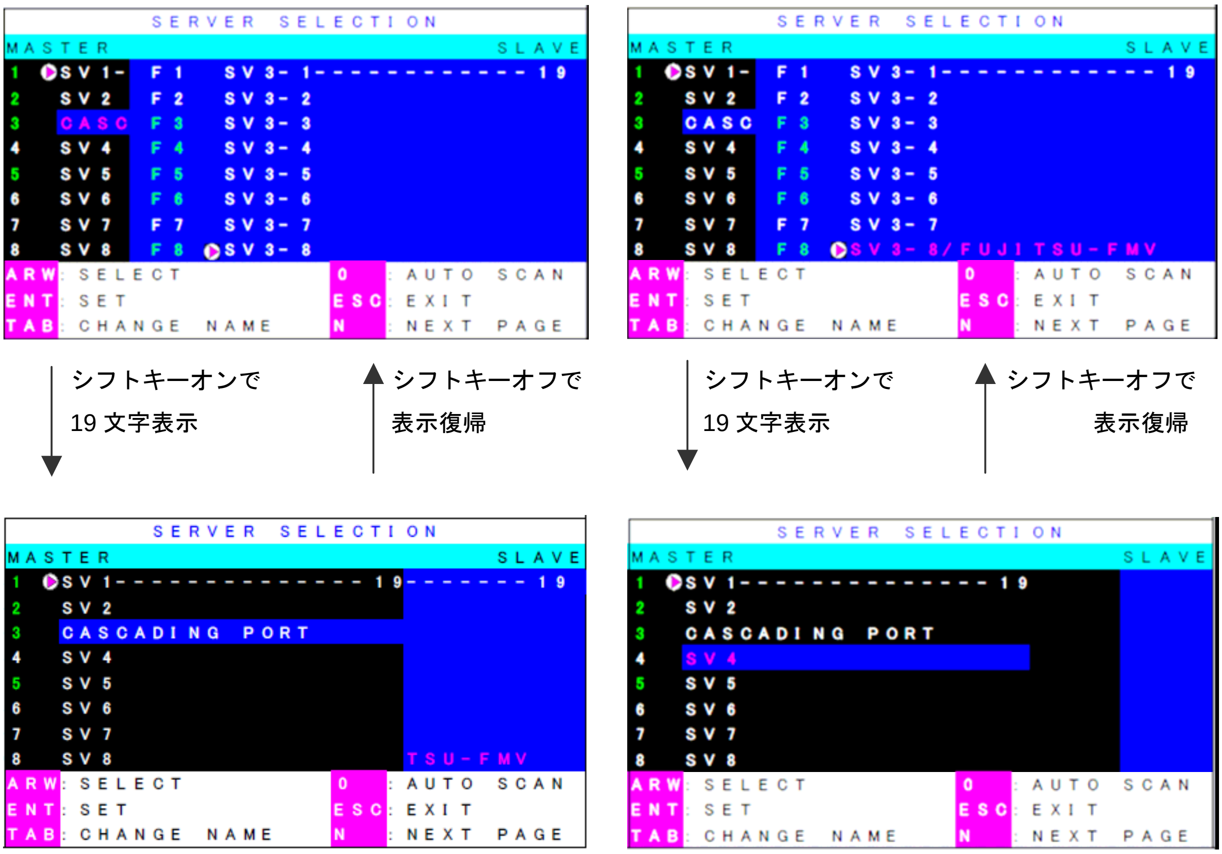
KVM スイッチ(8 ポート)の OSD 画面表示例（実際の画面と異なる場合があります。）

i　画面の説明

・画面中央の左側（背景色＝黒の部分）に本装置の状態が表示されます。
・画面中央の右側（背景色＝青の部分）に本装置のポートにカスケード接続されているスレーブ側装置の状態が表示されます。
・▶は現在選択されているポートを示し、紫色に表示されている文字列は<←>、<→>で選択可能なサーバを示します。
・紫色に表示されている文字列が現在カーソルキーで選択可能なサーバです。
・画面下部にはキー操作の簡単な説明が表示されます。
・［1～8、F1～F8］の表示で緑色になっているポートはサーバ電源が ON 状態であることを示します。
・カスケード接続していないポートを選択した場合には、マスター側にサーバ名が 19 文字表示され、スレーブ側には何も表示されません。
・マスター側画面表示中に選択するポートがカスケード接続されている/されていないにより OSD 画面は以下の通りに変わります。

＊注. カスケード接続していないポートを選択した時にはマスター側画面に 19 文字表示しスレーブ側には何も表示されません。(OSD 画面はカスケード接続していない場合と同じ)

＊注. カスケード接続しているポートを選択した時にはマスター側画面に 4 文字表示しスレーブ側画面に 19 文字を表示します。



マスター側のポートを選択した時(左側)とスレーブ側のポート選択時(右側)の表示例

ⅱ OSD画面でのサーバ切り替え方法

ⅱ-1 カーソルキーによる選択

・＜↑＞＜↓＞＜←＞＜→＞を使用して紫色に表示されている文字列を上下左右に移動させ、ポートを選択します。

・＜ENTER＞を押下すると選択を確定し、ホットキーモード１を終了します。切り替え後は画面左上に約３秒間サーバ名を表示します。
（マウスセンターボタン押下でも選択を確定できます。）

・<ESC>を押下すると選択をキャンセルし、ホットキーモードを終了します。画面はホットキーモード１開始画面に戻ります。
（＜Ctrl＞+＜Alt＞+＜Shift＞同時押下でも選択をキャンセルできます。）

ⅱ-2 数字キー/ファンクションキーによる直接選択

・マスター側は＜1＞～＜8＞が各ポート番号に対応し、スレーブ側は＜F1＞～＜F8＞が各ポート番号に対応します。

・＜1＞～＜8＞のいずれかを押下し、マスター側のポートを選択します。

・＜F1＞～＜F8＞のいずれかを押下し、スレーブ側のポートを選択します。

*注.カスケード接続されていないポートを選択した時点で確定しホットキーモードを終了します。カスケード接続されているポートを選択した場合は確定せず、スレーブ側のポート選択入力を待ちます。

例１：マスターのポート１にスレーブが接続されていない場合、＜1＞押下時点で確定する。

例２：マスターのポート１にスレーブが接続されている場合、＜1＞押下時点では確定せず、＜F1＞～＜F8＞のいずれかを押下した時点で確定となる。）

ⅱ-3　マウスによる選択

・ホイールボタン(ホイール)でサーバ選択をします。ホイールボタンクリック、または左右ボタン同時クリックで選択を確定し、ホットキーモード１を終了します。切り替え後は画面左上に約３秒間サーバ名を表示します。（ホイールボタン付きマウスの場合）

・サーバ選択画面で右クリックするとスレーブ側を選択します。(カスケード接続時)
カスケード接続していない時は、カスタマーモードに移ります。

・サーバ選択画面で左クリックするとマスター側を選択します。(カスケード接続時)
また、カスタマーモードで左クリックするとサーバ選択画面に戻ります。

ⅲ Auto Scanモード

＜0＞を押下すると［SELECT］LEDが遅い点滅に変わり、画面左上にサーバ名がOSD表示されます。文字の背景はピンク色になります。サーバ電源がONになっているポートを一定の周期(初期値は10秒)で自動的に切り替えることができます。切り替えの周期は3/5/10/20/40/60秒の範囲で選択でき、＜↑＞押下で速くなり、＜↓＞押下で遅くなります。なお、オートスキャン中はサーバのキー入力、マウス操作をすることができません。

［Auto Scan］スイッチ押下、＜Enter＞押下または、マウス左ボタンクリック（マウス中ボタンクリック、左右ボタン同時クリックでも可能）により、現在表示している画面を選択し、オートスキャンを終了します。

＜ESC＞押下または、マウス右ボタンクリックにより、オートスキャンを開始した時の画面に戻り、オートスキャンを終了します。

iv　サーバ名の登録・変更

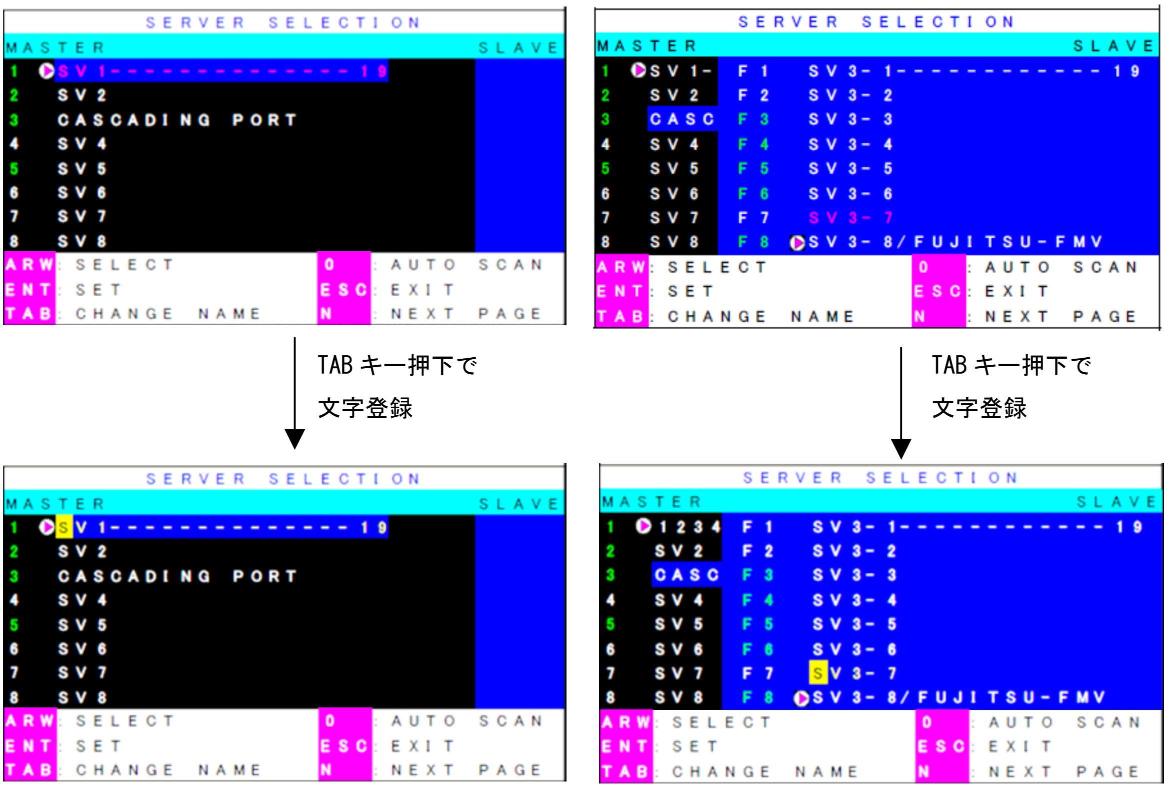
(1)　カーソルキーでサーバ名を登録・変更したいポートを選択します。

(2)　<Tab>を押下します。

(3)　文字列が黄色になり、最初の 1 文字が黄色の背景となります。

(4)　キーボードでサーバ名を入力して、<Enter>を押下すると登録・変更されます。
<Del>で 1 文字削除、<BS>で後退します。<ESC>を押下すると、入力がキャンセルされ、登録・変更前の画面に戻ります。
サーバ名の登録文字数は最大 19 文字です。
登録できる文字は ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ1234567890,./[]:+×-及びスペースの 46 文字です。

*注. [SELECT]スイッチの［ ◀ ］、［AUTO SCAN］を押下しながら［RESET］スイッチを押下するとサーバ名とホットキーモード設定を初期値にリセットすることができます。一度サーバ名を初期値にリセットすると完全に消去され、元に戻すことはできません。



マスター側登録名称変更例　　　　スレーブ側登録名称変更例
(本装置単体の時も同様、但し青色部分未表示)

Point　「付録.サーバ名称記録シート」をご使用になられると便利です。

2-2-2 ホットキーモード 2

ホットキーモードの MODE-2 は画面左上にサーバ名が OSD 表示されます。

ⅰ 画面の説明

画面左上にサーバ名が OSD 表示されます。
切り替える前は、文字の背景が赤色で表示されます。
切り替えた後は、文字の背景が青色になり、サーバ名を約 3 秒間表示します。

ⅱ サーバ切り替え方法

マスター側は＜1＞～＜8＞が各ポート番号に対応し、スレーブ側は＜F1＞～＜F8＞が各ポート番号に対応します。
文字の背景が赤色で表示されている時に＜1＞～＜8＞のいずれかを押下し、マスター側のポートを選択します。
文字の背景が赤色で表示されている時に＜F1＞～＜F8＞のいずれかを押下し、スレーブ側のポートを選択します。

*注. カスケード接続されていないポートを選択した時点で確定しホットキーモード 2 を終了します。カスケード接続されているポートを選択した場合は確定せず、スレーブ側のポート選択入力を待ちます。

（例 1 : マスターのポート 1 にスレーブが接続されていない場合、＜1＞押下時点で確定する。
例 2 : マスターのポート 1 にスレーブが接続されている場合、＜1＞押下時点では確定せず、＜F1＞～＜F8＞のいずれかを押下した時点で確定となる）

マウスの右ボタンクリックで順方向、左ボタンクリックで逆方向にサーバ切り替えを行うこともできます。未接続ポート、電源の入っていないポートはスキップします。

*注. 文字の背景が赤色で表示されている時は、サーバのキー入力、マウス操作はできません。

- ＜ENTER＞を押下する、もしくはマウスの左右ボタンクリックで、切り替えたポートを確定し、ホットキーモード 2 を終了します。切り替え後は画面左上に約 3 秒間サーバ名を表示します。（マウスセンターボタン押下でも選択を確定できます。）
- <ESC>を押下すると切り替え前のポートに切替わり、ホットキーモードを終了します。（＜Ctrl＞+＜Alt＞+＜Shift＞同時押下でも選択をキャンセルできます。）

ⅲ Auto Scan モード

＜0＞を押下すると［SELECT］LED が遅い点滅に変わり、画面左上にサーバ名が OSD 表示されます。文字の背景はピンク色になります。サーバ電源が ON になっているポートを一定の周期（初期値は 10 秒）で自動的に切り替えることができます。切り替えの周期は 3/5/10/20/40/60 秒の範囲で選択でき、＜↑＞押下で速くなり、＜↓＞押下で遅くなります。なお、オートスキャン中はサーバのキー入力、マウス操作をすることができません。
［Auto Scan］スイッチ押下、＜Enter＞押下、マウス左クリック、マウスセンターボタンクリックのいずれかの操作で、現在表示している画面を選択し、オートスキャンを終了します。
＜ESC＞押下、マウス右ボタンクリック、＜Ctrl＞+＜Alt＞+＜Shift＞同時押下のいずれかの操作で、オートスキャンを開始した時の画面に戻り、オートスキャンを終了します。

3.サーバ名の常時OSD表示

＜Shift＞を押下しながら＜Scroll Lock＞を連続2回押下により、選択しているポートのサーバ名を画面左上に常時OSD表示することができます。本装置の初期状態は非表示状態です。
サーバ名を常時OSD表示中に同操作を行うと非表示になります。
常時表示/非表示の設定は、OSD及びセレクトスイッチでの切り替えを行った後もそのまま残ります。
*注.ホットキーモード1で＜Shift＞を押下しながら〈Scroll Lock＞を連続2回押してもサーバ名の常時OSD表示の設定を変更することはできません。

Point　常時OSD表示はホットキーモードに移動しなくても設定可能です。

回収・リサイクルについて

当社では法人のお客様のご使用済みIT製品を回収・リサイクル(有償)し、資源の有効活用に積極的に取り組んでいます。
詳細は、当社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」

http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html

をご覧ください。

仕　様

項　目		仕　様	
名称（型名）		4ポートKVMスイッチ (PG-SB203)	8ポートKVMスイッチ (PG-SB204)
接続台数		最大4 カスケード接続にて拡張可能	最大8 カスケード接続にて拡張可能
選択方式		SELECTスイッチ、OSD表示（ホットキーモード）	
LED表示	POWER(緑色)	4	8
	SELECT(緑色)	4	8
サーバとのインターフェース仕様	PS/2キーボード	PS/2 キーボードインターフェース(OADG準拠)	
	PS/2マウス	PS/2 マウスインターフェース(OADG準拠)	
	USB	USB(Fullスピード、HIDコンポジット)	
コンソールポートコネクタ	キーボードI/F	PS/2、Mini DIN 6P メス ×1（紫色）	
	マウスI/F	PS/2、Mini DIN 6P メス ×1（緑色）	
	モニタ	Mini D-SUB 15P メス ×1　（青色）	
	USBコンソール	USB　キーボード、マウス(Low、Fullスピード)×2	
ホストポートコネクタ		Mini D-SUB 15P メス×4（黒色）	Mini D-SUB 15P メス×8　(黒色)
OSDモード		マニュアル（ホットキー）モード　/　オートスキャンモード	
オートスキャン機能		3/5/10(初期値)/20/40/60秒の周期にて電源オンのサーバ画面を自動表示切替	
モニタ解像度 リフレッシュレート		1600 x 1200(最大) 75Hz	
モニタプラグアンドプレイ機能		VESA DDC2B対応	
電　源 / 消費電流		DC5V / 1.5A　※	AC100V / 0.3A
コンソールポートへのキーボード / マウス供給可能電流		PS/2 キーボード 150mA(MAX) PS/2 マウス 150mA(MAX) USB キーボード 300mA(MAX) USB マウス 300mA(MAX)	
動作周囲温度 / 湿度		10～35℃ / 20～80%RH	
保存温度		-5～50℃	
構　造		金属ケース、塗装（黒色）	
外形寸法　W×D×H (突起物は含まない)		195×114×40mm	437×140×42mm
質量		0.7ｋｇ	2.1ｋｇ

※PS/2接続時、17インチフラットディスプレイ接続時の消費電流は0.5Aになります。

項　目	仕　様	
添付品	ゴム足　４個 保証書　１枚 取扱説明書　１部	ゴム足　４個 保証書　１枚 取扱説明書　１部 電源ケーブル 2m(リリースタイ付) (電気用品安全法適合品)　１本 ラック取り付けネジ M6×15　４本
オプション品	・本装置共通 KVM ケーブル[PG-CBLDP12]　(PS/2：1.8m) KVM ケーブル[PG-CBLDP13]　(PS/2：3.0m) KVM ケーブル[PG-CBLDP14]　(PS/2：5.0m) KVM ケーブル[PG-CBLDP15]　(USB：1.8m) KVM ケーブル[PG-CBLDP16]　(USB：3.0m) KVM ケーブル[PG-CBLDP17]　(USB：5.0m) ・KVM スイッチ(4 ポート)のみ AC アダプタ [PG-SBPU2] （リリースタイ付） (単体で使用する場合および 15 インチフラットディスプレイ搭載の場合は必須となります。 17 インチフラットディスプレイ搭載の場合は不要です。) ・ラックマウント変換機構[PG-R1CK19]	

トラブルシューティング

症　状	原　因	対　策
キーボード、マウスの動作がおかしい / 動作しない	キーボード、マウスが逆接続 (PS/2 のみ)	サーバ及び本装置を正しく接続する
	ホットキーモードが解除されていない	<Enter>か<Esc>を押す
	キーリピートの設定がおかしい	サーバのキーリピートのスピード設定を変更する
	接続 / ケーブル不良	コネクタの接続を確認する 別ケーブルと交換し、問題が解決したら、良品ケーブルに交換し、不良ケーブルは廃却する
	サポートしていないキーボード、マウスを接続	サポートされている キーボード、マウスに交換する
	PS/2 コンソールと USB コンソールの両方にキーボード、マウスを接続している	PS/2 か USB どちらかのキーボード、マウスを外す。 PS/2 と USB の両方に接続していると USB 側が優先され、PS/2 側は動作しません。
スクロール機能及びボタンが動作しない	サポートしていないマウスを使用した	サポートされているマウスに交換する
	専用ドライバをインストールしてない	専用ドライバをインストールする
画質が劣化する (ゴーストや文字のニジミ等)	接続 / ケーブル不良	コネクタの接続を確認する 別ケーブルと交換し、問題が解決したら、良品ケーブルに交換し、不良ケーブルは廃棄する
切り替えると画面がずれたり、表示できなかったりする	解像度が違う	解像度を合わせるか、モニタ側で調整する
	モニタが未対応 / 同期が取れない	サポートされているモニタを接続するモニタ側で調整する
オートスキャンモードにならない	ホットキーモードになっていない	ホットキーモードに入り、<0>を押す
	押下したキーが間違っている	<0>を押す
ホットキーモードで切り替えできない	押下したキーが間違っている	1 段目（マスター）は<1>～<8>を押す 2 段目（スレーブ）は<F1>～<F8>を押す
オートスキャンの切り替え周期がおかしい	切り替え周期が調整されていない (初期値 10 秒)	<↑>及び<↓>で調整する

症　状	原　因	対　策
今まで動いていたのに突然動かなくなった	接続が外れた	接続を確認し、再起動する
	本装置がハングアップした	リセットスイッチを押す
	サーバに不具合が発生した	サーバの不具合を直す
サーバを ON しても本機の LED が点灯しない	接続が外れた	サーバの電源 OFF にしてから正しく接続し、電源を投入する
カスケードを認識しない	本装置に不具合が発生した	マスターのリセットスイッチを5 秒以上長押しする
画面が映らなくなった	サーバの省電力モード設定により画像信号をサーバが出力しなくなった	ホットキーモード 1 に入ることにより省電力モードから復帰する（従来機種では本機能はありません）
	選択されたサーバの電源が OFF になった	ホットキーモード 1 に入り他のサーバを選択する
画面サイズが 1024ｘ768 より大きくならない	モニタの EDID が読み込まれていない	ホットキーモード 1 に入り EDID データを設定して下さい。「1-3 プラグアンドプレイデータ（EDID データ）の設定」を参照して下さい。
	モニタが対応していない	高解像度に対応しているモニタを接続して EDID データの設定をしてください。

付録． サーバ名称記録シート

本装置に設定したサーバ名称の控えを記録しておきます。

Master Unit	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.1	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.5	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Console	
Item	Model Name
Monitor	
Keyboard	
Mouse	

Slave Unit Port.2	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.6	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.3	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.7	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.4	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Slave Unit Port.8	
NO.	NAME
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

KVM スイッチ（4 ポート）［PG-SB203］
KVM スイッチ（8 ポート）［PG-SB204］

取扱説明書

発行日　　2009 年 7 月
発行責任者　富士通株式会社

Printed in Japan

本マニュアルは再生紙を使用しています

NC14004-L592-02